せいそう労働者

川崎市職員労働組合
清掃支部
発　行
川崎市川崎区東田町5-1
市労連会館4階
電　話　044(222)5906
発行責任者　渋谷　勝美
編集責任者　田中　慎吾

清掃支部ホームページ
ＱＲコード

令和4年台風第15号による大雨被害

静岡市災害派遣任務　完遂

２０２２年９月24日、東海地方に被害を及ぼした台風15号により、静岡県静岡市清水区巴川付近の災害廃棄物に関する災害復旧支援要請が、９月29日に環境省から全国都市清掃会議に要請があり川崎市に通達された。

第１陣10月５日から10月11日、第２陣10月11日から10月17日の約２週間、両陣共に16名（隊長１名、運転手10名、作業員５名）、車両は中型ごみ強制圧縮車４車、小型粗大空き瓶供用車１車、軽自動車１車（隊長車）、中型粗大車１車（８日から）にて対応した。

悲惨な状況を前に対策を模索する派遣職員

主な被災ごみは、家具、家電、畳など多種多様で、強制圧縮車で収集が困難な粗大ごみの割合が多いため、作業２日目終了後に強制圧縮車１車を中型粗大車に入れ替えた。

また、現地の処理施設がガス化溶融炉で金属等が混ざった被災ごみも処理が可能ということで、強制圧縮車で収集可能な被災ごみは全て混載した。その他家電４品目、畳、危険物、鉄くず等は仮置き場で仕分けした。川崎市の処理施設は混載された災害ごみの処理は難しく、収集の時点での仕分けが望まれる。

様々な場所に設置された臨時集積所

静岡市は各家庭から発生する被災ごみを搬送する場所として、大規模な仮置き場を清水区の港湾部と山間部の２カ所に設置していた。仮置き場へ持ち運べない人もいるため、各自治会が公園や空き地を近隣に住む人の臨時集積所として指定していた。中には指定されていない集積所もあり、合計約１６０カ所を超えていた。この公式・非公式の集積所を効率的・効果的に全体把握し易くしたのは、２０１６年４月に地震で被災し、川崎市からも支援を行った熊本市。熊本市被災時の教訓を活かした災害対応策の一つであるデジタル集積所マップは、情報管理及び共有が容易で、横浜市や名古屋市等の他都市を含む、川崎市派遣職員たちの効率的な作業を支えた。

近年、全国的に災害が続いている。今回の静岡市災害支援で発生した問題や不手際から反省、学ぶことは多い。支援要請を受けてから派遣までの短い準備期間でどんな事が出来るか、支援先でどのように動けば効果的か。２０１９年に東日本台風で被災した経験から、川崎市も他都市からの受援時の作業体制を考えていかなければならない。それらの知識・経験をどのように風化させず次世代に繋いでいくのか。自然災害は待ったなしである。

今回静岡市の災害現場を目の当たりにした職員は、「静岡市は仕分けを行う広大な仮置き場が確保できていた事で十分な対応が出来ていたように見えたが、川崎市で同じ規模の被害があった場合、仮置き場の確保の難しさを感じた。細かいことだが、現地で作業していて感じたことは、通常の雨合羽は被災ごみ収集時には向かず、頑丈なものが必要だ。」と語った。また、現在処理場分会の清掃支部菅原書記次長は、「被災された方々や街を目の当たりにすると、処理場側の諸事情はあるが、早期復興を望む方々の事を考えると、早く片付けてあげたいと思いながら混載を前提に全力を尽くす収集側の気持ちも理解でき、災害時における収集と処理の対応の仕方は今後の課題だ。」と語った。